



そろばんを通して得た宝

TIS株式会社 土生 桃子

母が私を初めてそろばん教室に連れて行ったのは小学校1年生時の冬でした。そろばんを始めてかれこれ17年以上が経ちますが、日常生活においてそろばんを通して学んだことが生かされなかった日は1日たりともありません。この場をお借りして、私がそろばんを習うことで得たものについてお話ししたいと思います。

横浜の教室に約1年通った後、転勤により仙台に引っ越しました。教室が変わった小学校3年生からは週に3~4回、一日約3時間ずつ教室に通いました。やはり「好きこそ物の上手なれ」で、そろばんが楽しくて仕方がなかったこの時期が一番上達したと感じます。また、大会でライバルや自分自身と競う楽しさを覚えました。

中学~高校では、受験勉強が忙しく練習時間が減るなか、効率的に点数を伸ばすために工夫を始めた時期でもありました。高校を卒業して京都大学に入学してからは、友人たちと一緒に珠算同好会を新設しました。卒業した今も精力的に活動しているようで、大変嬉しい限りです。

珠算と密接に関わるなかで身についたと感じる能力は三つあります。一つ目は問題解決能力です。珠算式暗算は、頭の中にそろばんを想像して計算を行うため、イメージ力が鍛えられる側面があります。問題に突き当たった時、解決する方法を瞬時に思考することが得意になりました。また、問題の解決法がわかるということは、問題そのものの性質がわかるということです。問題解決能力に加え、物事の本質を見抜く能力も備わったと感じております。

二つ目は工夫する能力です。受験を控え練習時間が限られるなか、「どうしたらもっと速く、正確に計算できるだろう?」と様々なことを試しました。計算している時の自分の癖に注目し、速算の妨げになることや、足りていない部分を一つずつ矯正しながら練習をする、そうすることで、少

ない練習時間をより有意義なものにすることができました。上達を目指して試行錯誤する経験をしたことが大きな財産になっていると感じます。

三つ目は精神力です。検定試験や大会では、限られた時間でより多くの問題を正確に解くことにより最終的な成績を決定します。これは非常に精神が鍛えられる作業です。周りに多くのライバルがいるなか、自分をコントロールして普段通りのはじきをするのは大変難しいことです。受験や出場の経験を多く重ねることで、極度の緊張を跳ね返す強靱な精神が養われたと感じています。余談ですが、私は高校・大学受験で緊張することがありませんでした。そろばんの試験や大会で場慣れしていたおかげだと思います。

私は今IT企業でシステム保守の仕事をしています。そろばんとコンピュータ、一見共通点などないように思われますが、実はそろばんはコンピュータと同じデジタル器具の一種なのです(アナログとデジタルの意味を調べてみるとわかります)。そろばんは昭和の産物で昨今のデジタル社会では時代遅れ…なんて言われたりしますが、そうではありません。そろばんを通して培われる経験や能力は幅広く応用が可能です。そろばんは私の人格の土台部分を形成し、生活の様々な場面において大きな影響を与えていると感じます。そしてその能力は、仕事において、また未来の社会においても、普遍的に通用するものであると信じております。そろばんに出会えたことこそが私の一生物の宝です。

最後に、熱心にご指導に当たってくださった先生方、普段の送迎や大会の出場など、様々な場面で応援してくれた両親と祖父母に心より感謝して結びの言葉とさせていただきます。そろばんを習っている皆さん、更なる上達を目指してがんばってください!